

# 明治後期の賃機工賃\*

—大阪府泉南地方の史料による—

斎藤 修・阿部武司

## 1. はじめに

戦前期日本経済の一大構成部門であった在来産業、とりわけ織物業は、問屋制家内工業として営まれることが多かったといわれる。たとえば綿布の場合、織元、すなわち産地問屋(買次商)や、その下位にあった仲継商(仲買)などと呼ばれた商人が、棉花または綿糸を農家に渡し、それをういて織られた綿布を工賃と引きかえに集荷する取引形態が支配的だったのであり、手織機に依って織布に従事する農家は賃機(または賃織)と呼ばれていた。このような形態が変化して力織機を備えた工場が建設されるようになるのは、明治後期以降のことである。われわれは別稿<sup>1)</sup>において、この賃機から力織機工場への転換にかんする分析を行ったが、ここでは同稿で依拠した賃機の工賃データの詳細を提示するとともに、これまで具体的なことがなかなかわからなかった問屋制家内工業の実態の一端を明らかにしたい。

本稿が紹介するデータは、全国有数の綿織物産地泉南(現在の大阪府岸和田市以南の地域)に存在した一織元の史料から求めた、明治後期における賃機農家の綿布1反当り受取工賃である。従来の研究が織物業の賃金について言及する際に依拠していた統計は、農商務統計表が府県統計書にある機織日給のそれであって、これらの官庁統計がどこまで賃機農家の受取工賃を反映していたのかはわからなかったのである<sup>2)</sup>。また問屋制の実態を解明

\* 本稿の史料は、帯谷織布株式会社社長、帯谷正次郎氏の御厚意により閲覧することができたものである。またデータの集計・計算作業には、本研究所統計係の方々の協力を得た。記して謝意を表す。

1) 斎藤修・阿部武司「賃機から力織機工場へ——明治後期における綿織物業の場合」南亮進・清川雪彦編『日本の工業化と産業技術の発展(仮題)』(東洋経済新報社、近刊)、第4章。

2) たとえば、明治末期における在来織物業の力織機化にかんする、これまでのところもっともまとまった議論を展開している高村直助『日本紡績業史序説』下巻(塙書房、1971年)でも、依拠されているのは官庁統計による賃金系列である。

することを目的とした研究の場合<sup>3)</sup>、賃機工賃の低廉さ、その変動幅の大きさなどが指摘されてきたが、その根拠とされたデータは、同業組合などが公表した大雑把な数値か、あるいは一次史料をごく部分的に集計したものにすぎなかった。これらにたいし、われわれの工賃統計は、一織元と多数の賃機農家との日々の取引を記録し、しかも10数年間をカバーする一次史料を全面的に利用することによって得られたものであり、これによって初めて、問屋制家内工業の分析を進めるうえで有用な数量データを提供できることとなった。

## 2. 原史料について

本稿の原史料は、大阪府貝塚市の<sup>おびたに</sup>帯谷織布株式会社<sup>おびたに</sup>が所蔵する『株取帳』<sup>4)</sup>と題された一連のマニュスクリプトである。

帯谷織布の前身、帯谷商店(以下、帯谷と略称)は、棉買・木綿商<sup>5)</sup>の帯谷幸助によって1875(明治8)年に設立

3) 賃機にかんするこれまでの研究については、とりあえず松崎久実「産業革命期の奈良県農村織物業と農村労働力」『土地制度史学』第104号(1984年)、33-34頁を参照。

4) ただし全15冊のうち、2冊のタイトルは『機場帳』であり、表紙の判読が不能なもの、表紙が欠落したものが各々1冊含まれている。

5) 棉買とは、徳川時代に発生した問屋商人であり、棉作農家から自給部分を超越する棉花を購入していた。彼らは、その一部を農家に渡して、手紡糸または綿布と交換し、残部を京都・大坂の棉花仲買人に販売していた(相沢正彦『泉南織布発達史』、1938年、18-19頁)が、明治期に至り機械制紡績糸が綿布生産に用いられるようになり手紡糸生産が減少するに従って衰退し、1892年頃、消滅したといわれる(谷口行男『泉南郡綿織物発達史』1950年、14-16頁)。この棉買との系譜上の関連は不明であるが、明治初年頃、木綿屋、木綿買、仲買などと呼ばれる綿布商が泉州に登場し、彼らは1887年頃まで原料の賃なしに農家から綿布を購入していた模様である(同上、22-23、26、28頁)。本文中の木綿商はこうした商人に該当するものと思われる。さて、明治後期の帯谷のようなタイプの織元が泉南に登場するのは明治20年代以降であり、彼らのうち、

され、明治後期には、大阪市から仕入れた機械制国産紡績糸を——おそらく手織機とともに——近隣の農家などに貸与して、それらが生産した小幅白木綿を工賃と引換えに集荷し、大阪市の綿布商に販売していた。つまり当時の帯谷は、賃機農家と取引を行う典型的な織元であった。しかし、帯谷は遅くとも1911(明治44)年中に賃機農家との取引を完全に廃止し、代わって日露戦後の泉南に簇生しつつあった、力織機を備えた工場と、賃機農家の場合に酷似した取引を始めた。そして自からも、翌年頃、木島村清児(現、貝塚市)に半木製小幅力織機推定120台を備えた工場を建設、小幅白木綿の製織を開始した<sup>6)</sup>。

帯谷の『株取帳』は賃機農家との取引記録であり、15冊が現存する。それらがカバーする時期は、判明するかぎりでは1892(明治25)年7月から1909(明治42)年8月に及ぶが、年代推定、記載内容などの理由から、ここで利用するのは1898(明治31)年10月-1909(明治42)年8月にかんする8冊である。

さて、原史料の記載様式は、もっとも豊富な情報が得られる1900年8月-翌年8月についてサンプル頁を示せば、次の通りである。

|                       |        |       |        |        |
|-----------------------|--------|-------|--------|--------|
| ③<br>六<br>仲<br>三<br>機 | ④8月12日 | ⑤伸井反渡 | ⑥8月25日 | ⑧8月25日 |
|                       | 8月12日  | 全井反渡  | ⑦入式十反  | ⑨代八十銭  |
|                       | 8月16日  | 全井反渡  | 8月25日  | 8月25日  |
|                       |        |       | 入式十反   | 代八十銭   |
|                       |        |       | 9月4日   | 9月4日   |
|                       |        |       | 入式十反   | 代八十銭   |

- ① 帯谷から織機と伸(糊付加工を施した綿糸と見られる)を受取り、それらを用いて綿布を織る農家の戸名。
- ② ①の住所。
- ③ 帯谷より①に貸与された織機の数と、それに応じて①が帯谷から受取る伸の量。この場合、織機3台に対し伸6単位。
- ④ ①が伸を受取った月日。
- ⑤ ①の受取った伸の綿布換算量。
- ⑥ ①が帯谷に綿布を渡した月日。
- ⑦ ①が渡した綿布の量。
- ⑧ ①が帯谷から工賃を取った月日。
- ⑨ ①が受取った工賃の金額。

大手業者は仲買、その下位にある者は出機屋と呼ばれた。出機制が始まる直前の1884-87年頃、泉南では農家の1/3が機織に従事していたが、その開始後、ほどなく8割ないし、ほぼ全ての農家が賃機になったという。なお1877年頃以降、泉南に普及し、その8割までを農家が製作していたというパターン(チョンコ機と呼ばれる)を改良した太鼓機が1892年頃に発明された後、それが農家では製作不能であったため、出機制は急速に拡大したものとみられる(以上、谷口、前掲、19, 27-29, 32頁による)。

6) この段落の記述につき、詳しくは阿部武司「戦

表1 原史料の概要

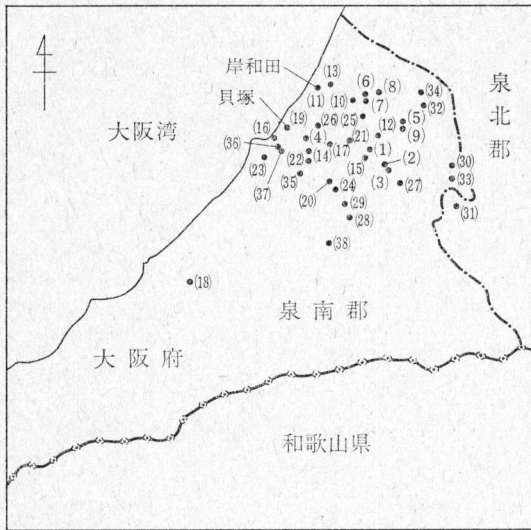
| 史料番号 | カバーする時期               | 対象地域〔賃機業者数〕   |
|------|-----------------------|---|
| ①    | 1898年10月<br>~1899年10月 | (1)神須屋[39], (2)八田村[26], (3)真上村[24], 不明[1]   |
| ②    | 1899年4月<br>~1900年10月  | (4)福田村[104]   |
| ③    | 1900年8月<br>~1901年8月   | (5)尾生村[32], (6)八坂村[18], (7)下松村[12], (8)額原村[11], (9)福田村[8], (10)別所村[7], (11)岸和田[1], (12)上松村[1], (13)沼村[1], 泉文前村[12], 不明[3]   |
| ④    | 1902年10月<br>~1904年2月  | (14)鳥羽村[18], (15)流木村[13], (16)脇浜村[8], (17)半田[8], (18)樫井[8], (19)貝塚[5], (20)清児村[3], (21)畑村[3], (22)石才[2], (23)沢[1], 大浜[1], 近木三町[1], 地方[2], 不明[3]   |
| ⑤    | 1904年4月<br>~1905年1月   | (19)貝塚[25], (20)清児[22], (2)八田村[17], (12)上松[10], (24)名越[10], (5)尾生[8], (1)神須屋[8], (15)流木[7], (22)石才[5], (8)額原[5], (7)下松[4], (3)真上[4], (17)半田[3], (25)作才[3], (6)八坂[1], (14)鳥羽[1], (16)脇浜[1], (26)堀[1], (27)土生滝[1], (28)三ツ松村[1], 新出[2], 新村[1], 小瀬村[1], 不明[1] |
| ⑥    | 1906年2月<br>~1908年8月   | (14)鳥羽[21], (20)清児[17], (22)石才[11], (29)森[10], (24)名越[5], (28)三ツ松[1], 中村[5], 不明[1]  |
| ⑦    | 1907年9月<br>~1909年3月   | (30)稲葉[41], (31)内畑[33], (32)新在家[8], (33)積川[4], (34)田治米[1], 橋室[8], 不明[1]   |
| ⑧    | 1909年4月<br>~1909年8月   | (35)橋本[16], (16)脇浜[11], (24)名越[9], (29)森[8], (22)石才[7], (19)貝塚[6], (26)堀[6], (20)清児[4], (36)加治[3], (11)岸和田[3], (37)畠中[1], (38)久保[1]   |

(注) 対象地域の前のバーレン内は、図1にある各地域(おおむね大字レベル)の番号。これがない場合、所在地を確認できない。なお原史料の地域名は、しばしば誤っているため、正しいと思われる名称を掲げた。

(出所) 地域の確認は星野文三編『大日本市町村名鑑』(博聞社, 1893年, 58-59頁, 大久保利謙監修『明治大正日本国勢沿革資料総覧』第4巻, 柏書房, 1983年), 図1は泉南郡役所『泉南記要』(1917年)。

前期泉南綿織物業における『産地大経営』——帯谷商店の分析』東京大学社会科学研究所『社会科学研究』第35巻1号(1983年), 3-25頁を参照。

図1 対象地域



ここから帯谷が、織機と原料糸を別小村の勘七なる人物に貸与し、それらを用いて彼の家で織られた綿布と引換えに、工賃を支払っていた事実がうかがえる。なお、実際に機織に従事したのは勘七ではなく、勘七家の婦女子であったと思われる。この帳簿に登場する賃機業者名は男子であって、実際に機を織った女子ではないので、延何人の織子がどの位の反数を何日かかって織上げたかは残念ながらわからない。しかし、いずれにしてもここから算出される工賃は、女子の工賃と考えるべきであろう<sup>7)</sup>。

表1に示したように、原史料の1冊にはこのような記録が約70-140家分収められている。同表と図1から明らかのように、各冊がカバーする地域はほぼすべて、現在の岸和田・貝塚両市に属す諸村であるが、史料1冊ごとに対象地域は異っており、織元業に専念していた時期の帯谷が、同一年次について対象地域を異にする複数冊の『株取帳』を常にもっていたことが推察される。したがって、ある1冊の帳簿から得られた工賃の時系列が、次の1冊からのそれと部分的に重複していたり、それらの時期が近接していたとしても、厳密に言えば、両者を合成または接続することはできないというべきかもしれない。

7) ここで得られる情報のうち③は大変に興味深いものであるが、記載があるのは例示した帳簿にかぎられ、また個々の賃機業者の状態を示す『株取帳』以外の史料も見いだせなかったため、それを活用した分析は註1の別稿においてもなされていない。

### 3. 集計方法

以上の原史料から得られる賃機工賃(前記記載様式の⑨÷⑦)を、本稿では月別および四半期別に示す。以下、集計方法を説明する。

- 1) 年代推定が不可能または著しく困難な個人のデータは省く。
- 2) 明らかに同一人物で、原史料の別ページに記されている者(「二番株」)のデータは接合する。なお、このようなデータは全て時期的に連続している。
- 3) 以下、前節で示した記載様式に即して説明する。⑦と、それに対応する、つまり同一コラムにある⑨のいずれかが欠落している場合、集計から除外する。
- 4) ⑥と⑧の月が異なる場合、集計の際、⑨は⑥の月のデータと見なす。
- 5) ⑧の月が不明な場合、帯谷が綿布の集荷と同時に賃機農家へ工賃を支払ったと考え、⑥の月を⑧の月と見なす。
- 6) 同一コラムに月の異なる複数のデータが記入されている場合、もっとも古い月にかんする集計を行う。
- 7) ⑥が不明な場合、⑦と⑨が得られても、それらを集計から除外する。
- 8) その他、不審な点のあるデータは極力集計から除外する。
- 9) 月別工賃は、個々の取引ごとに求めた綿布1反当り工賃の算術平均値。四半期別工賃は、賃機農家1軒ごとに四半期間の綿布納入量と工賃受取額とを集計し、それらから求めた算術平均値である。

### 4. 結果とその解釈

以上の手続をへて得られた賃機工賃は、表2,3の通りである。図2はそのうち月別工賃の動きをグラフ化したもので、合せて、『大阪府統計書』から得られる、機織女、上等および下等の賃金(単位は1反当りではなく、1日当り)と比較している。これらにつき若干のコメントを加えておこう。

まず第1に、際立った事実として、賃機工賃における変動幅の大きさがあげられる。それも決して個人差にもとづくものではなく(表2,3における標準偏差と変動係数は意外なほど小さい)、月々の、あるいは季節による変動なのである。実際、毎年、前半に低下、後半に上昇するパターンが読みとれ、賃機工賃が農業労働の季節性に影響をうけていた事実がうかがえる。また、月別工賃はしばしば非常に大きく変動し、とくに1901年1-3月、



表2 賃機農家の月別工賃

| 年       | 月   | 算術平均<br>(銭/反) | 標準偏差<br>(銭/反) | 変動係数 | N<br>(件数) | 年       | 月   | 算術平均<br>(銭/反) | 標準偏差<br>(銭/反) | 変動係数 | N<br>(件数) | 年       | 月  | 算術平均<br>(銭/反) | 標準偏差<br>(銭/反) | 変動係数 | N<br>(件数) |
|---------|-----|---------------|---------------|------|-----------|---------|-----|---------------|---------------|------|-----------|---------|----|---------------|---------------|------|-----------|
| ① 1898年 | 10月 | 2.61          | 0.74          | 0.28 | 49        | 1901年   | 8月  | 3.88          | 0.47          | 0.12 | 115       | 1907年   | 4月 | 2.03          | 0.47          | 0.23 | 36        |
|         | 11  | 2.90          | 0.88          | 0.30 | 23        | ④ 1902年 | 10月 | 3.59          | 0.48          | 0.13 | 11        |         | 5  | 2.52          | 0.54          | 0.21 | 49        |
|         | 12  | 3.17          | 0.84          | 0.26 | 58        |         | 11  | 3.97          | 0.32          | 0.08 | 45        |         | 6  | 2.97          | 0.67          | 0.23 | 23        |
| 1899年   | 1月  | 3.35          | 0.45          | 0.13 | 53        |         | 12  | 3.28          | 0.43          | 0.13 | 58        |         | 7  | 3.00          | 0.92          | 0.31 | 33        |
|         | 2   | 3.24          | 0.64          | 0.20 | 38        | 1903年   | 1月  | 2.89          | 0.21          | 0.07 | 76        |         | 8  | 2.97          | 0.70          | 0.24 | 45        |
|         | 3   | 3.12          | 1.03          | 0.33 | 81        |         | 2   | 2.91          | 0.23          | 0.08 | 64        |         | 9  | 3.39          | 0.73          | 0.22 | 40        |
|         | 4   | 2.83          | 0.98          | 0.35 | 58        |         | 3   | 2.66          | 0.52          | 0.20 | 82        |         | 10 | 3.70          | 1.00          | 0.27 | 27        |
|         | 5   | 2.60          | 0.69          | 0.27 | 38        |         | 4   | 2.14          | 0.29          | 0.14 | 47        |         | 11 | 4.11          | 1.36          | 0.33 | 21        |
|         | 6   | 2.58          | 0.53          | 0.21 | 44        |         | 5   | 2.01          | 0.34          | 0.17 | 58        |         | 12 | 4.05          | 1.23          | 0.30 | 36        |
|         | 7   | 2.87          | 0.54          | 0.19 | 44        |         | 6   | 2.31          | 0.29          | 0.13 | 59        | 1908年   | 1月 | 3.62          | 0.73          | 0.20 | 43        |
|         | 8   | 2.99          | 0.67          | 0.22 | 53        |         | 7   | 2.62          | 0.27          | 0.10 | 108       |         | 2  | 3.62          | 0.79          | 0.22 | 33        |
|         | 9   | 3.24          | 1.56          | 0.48 | 77        |         | 8   | 2.22          | 0.18          | 0.08 | 133       |         | 3  | 3.59          | 0.80          | 0.22 | 94        |
|         | 10  | 3.50          | 0.76          | 0.22 | 13        |         | 9   | 2.39          | 0.40          | 0.17 | 109       |         | 4  | 3.13          | 0.82          | 0.26 | 64        |
| ② 1899年 | 5月  | 3.07          | 0.43          | 0.14 | 87        |         | 10  | 2.57          | 0.35          | 0.14 | 78        |         | 5  | 3.20          | 0.90          | 0.28 | 46        |
|         | 6   | 3.32          | 0.49          | 0.15 | 74        |         | 11  | 2.72          | 0.61          | 0.22 | 54        |         | 6  | 3.31          | 0.89          | 0.27 | 22        |
|         | 7   | 3.58          | 0.36          | 0.10 | 82        |         | 12  | 2.82          | 0.31          | 0.11 | 93        |         | 7  | 3.76          | 1.07          | 0.28 | 42        |
|         | 8   | 3.50          | 0.28          | 0.08 | 54        | 1904年   | 1月  | 2.18          | 0.53          | 0.24 | 134       |         | 8  | 4.30          | 1.26          | 0.29 | 24        |
|         | 9   | 3.58          | 0.44          | 0.12 | 78        |         | 2   | 2.04          | 0.43          | 0.21 | 48        | ⑦ 1907年 | 9月 | 4.61          | 0.72          | 0.16 | 26        |
|         | 10  | 3.64          | 0.54          | 0.15 | 36        | ⑤ 1904年 | 4月  | 1.37          | 0.14          | 0.10 | 191       |         | 10 | 4.66          | 0.96          | 0.21 | 49        |
|         | 11  | 3.74          | 0.34          | 0.09 | 39        |         | 5   | 1.43          | 0.13          | 0.09 | 146       |         | 11 | 4.96          | 1.60          | 0.32 | 33        |
|         | 12  | 3.54          | 0.35          | 0.10 | 50        |         | 6   | 1.51          | 0.12          | 0.08 | 79        |         | 12 | 5.10          | 1.47          | 0.29 | 45        |
| 1900年   | 1月  | 3.11          | 0.48          | 0.15 | 69        |         | 7   | 1.69          | 0.15          | 0.09 | 88        | 1908年   | 1月 | 3.84          | 1.05          | 0.27 | 47        |
|         | 2   | 3.12          | 0.19          | 0.06 | 27        |         | 8   | 1.99          | 0.16          | 0.08 | 142       |         | 2  | 4.16          | 0.74          | 0.18 | 37        |
|         | 3   | 3.10          | 0.43          | 0.14 | 69        |         | 9   | 2.16          | 0.14          | 0.06 | 151       |         | 3  | 3.72          | 0.94          | 0.25 | 57        |
|         | 4   | 2.22          | 0.44          | 0.20 | 92        |         | 10  | 2.31          | 0.16          | 0.07 | 142       |         | 4  | 3.25          | 0.68          | 0.21 | 75        |
|         | 5   | 2.05          | 0.19          | 0.09 | 95        |         | 11  | 2.47          | 0.16          | 0.06 | 64        |         | 5  | 3.28          | 0.85          | 0.26 | 59        |
|         | 6   | 2.21          | 0.21          | 0.10 | 31        |         | 12  | 2.65          | 0.32          | 0.12 | 145       |         | 6  | 3.59          | 0.75          | 0.21 | 21        |
|         | 7   | 2.53          | 0.64          | 0.25 | 31        | 1905年   | 1月  | 2.03          | 0.18          | 0.09 | 143       |         | 7  | 3.66          | 1.05          | 0.29 | 59        |
|         | 8   | 2.79          | 0.49          | 0.18 | 29        | ⑥ 1906年 | 2月  | 3.76          | 0.47          | 0.13 | 78        |         | 8  | 4.16          | 0.80          | 0.19 | 65        |
|         | 9   | 2.68          | 0.40          | 0.15 | 16        |         | 3   | 3.73          | 0.63          | 0.17 | 91        |         | 9  | 4.42          | 1.43          | 0.32 | 52        |
| ③ 1900年 | 8月  | 4.22          | 0.82          | 0.19 | 64        |         | 4   | 2.43          | 0.38          | 0.16 | 70        |         | 10 | 4.83          | 1.83          | 0.38 | 85        |
|         | 9   | 4.53          | 0.55          | 0.12 | 259       |         | 5   | 3.33          | 1.69          | 0.51 | 75        |         | 11 | 4.34          | 1.10          | 0.25 | 63        |
|         | 10  | 4.80          | 0.48          | 0.10 | 166       |         | 6   | 4.13          | 1.67          | 0.40 | 23        |         | 12 | 2.55          | 0.83          | 0.33 | 58        |
|         | 11  | 5.20          | 1.08          | 0.21 | 160       |         | 7   | 4.20          | 1.31          | 0.31 | 56        | 1909年   | 1月 | 3.00          | 1.10          | 0.37 | 66        |
|         | 12  | 5.48          | 0.45          | 0.08 | 230       |         | 8   | 3.71          | 0.80          | 0.22 | 107       |         | 2  | 2.95          | 0.76          | 0.26 | 52        |
| 1901年   | 1月  | 5.05          | 0.58          | 0.11 | 229       |         | 9   | 3.51          | 0.92          | 0.26 | 31        |         | 3  | 3.13          | 0.89          | 0.28 | 9         |
|         | 2   | 3.33          | 0.52          | 0.16 | 233       |         | 10  | 3.63          | 0.37          | 0.10 | 87        | ⑧ 1909年 | 4月 | 2.68          | 1.05          | 0.39 | 34        |
|         | 3   | 2.63          | 0.25          | 0.10 | 193       |         | 11  | 3.85          | 0.37          | 0.10 | 33        |         | 5  | 2.74          | 0.95          | 0.35 | 49        |
|         | 4   | 2.73          | 0.26          | 0.10 | 218       |         | 12  | 4.26          | 0.62          | 0.15 | 50        |         | 6  | 3.06          | 0.61          | 0.20 | 32        |
|         | 5   | 2.74          | 0.38          | 0.14 | 205       | 1907年   | 1月  | 4.28          | 0.58          | 0.14 | 90        |         | 7  | 3.39          | 0.66          | 0.19 | 27        |
|         | 6   | 2.63          | 0.31          | 0.12 | 95        |         | 2   | 3.21          | 0.68          | 0.21 | 75        |         | 8  | 3.35          | 0.22          | 0.07 | 49        |
|         | 7   | 3.24          | 0.47          | 0.15 | 140       |         | 3   | 2.59          | 0.53          | 0.20 | 70        |         |    |               |               |      |           |

(注) 1. 年月の前の①~⑧は前掲、表1と同じ史料番号。

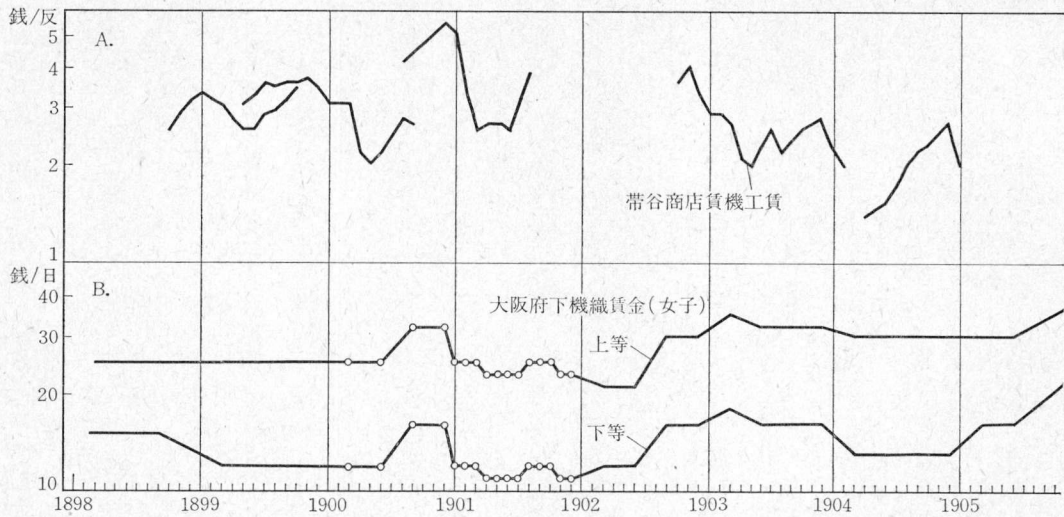
2. ②の1899年4月と翌年10月のデータは、Nが各々6,5と少ないため除外。

1902年12月-翌年5月、1907年2-4月などにおいては、約50%もの低下を記録している。これにたいして『府統計書』の数値では、このような激しい変化は認められない。変化がみられたとしてもその幅は僅かであり、したがって、その賃金系列は、各地の同業組合などによる、

おそらくは月々の変動を「均して」考えられた、標準的な賃率の報告にもとづいたものであったことを示唆している。

第2に、『株取帳』各冊から得られたデータを相互に合成または接続させることは、厳密にいえば許されない

図2 賃機工賃と『大阪府統計書』



(出所) A. 表2による月別工賃。B. 『大阪府統計書』, ○印を付したものは『大阪商業会議所月報』による(いずれも, 大阪大学経済学部宮本又郎氏)

表3 賃機農家の四半期別工賃

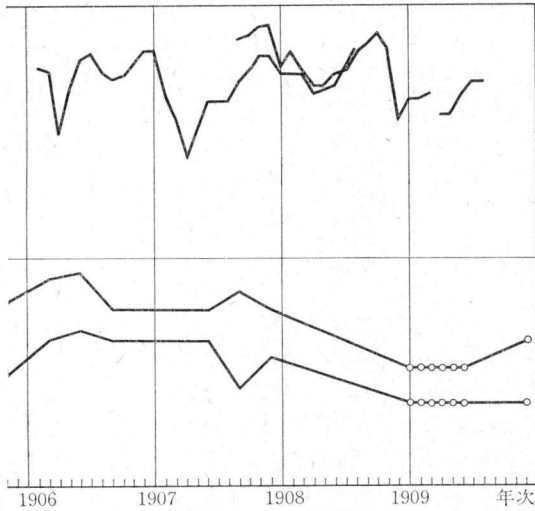
| 年      | 月        | 算術平均<br>(銭/反) | 標準偏差<br>(銭/反) | 変動係数 | N<br>(人) | 年        | 月        | 算術平均<br>(銭/反) | 標準偏差<br>(銭/反) | 変動係数 | N<br>(人) |
|--------|----------|---------------|---------------|------|----------|----------|----------|---------------|---------------|------|----------|
| ①1898年 | (4)11—1月 | 3.13          | 0.56          | 0.18 | 52       | (3)8—10月 | 2.07     | 0.13          | 0.06          | 85   |          |
| 1899年  | (1)2—4月  | 3.01          | 0.61          | 0.20 | 46       | (4)11—1月 | 2.32     | 0.20          | 0.09          | 90   |          |
|        | (2)5—7月  | 2.74          | 0.39          | 0.14 | 50       | ⑥1906年   | (1)2—4月  | 3.34          | 0.60          | 0.18 | 35       |
|        | (3)8—10月 | 3.32          | 1.59          | 0.48 | 60       | (2)5—7月  | 3.55     | 1.06          | 0.30          | 38   |          |
| ②1899年 | (2)5—7月  | 3.29          | 0.37          | 0.11 | 84       | (3)8—10月 | 3.51     | 0.50          | 0.14          | 35   |          |
|        | (3)8—10月 | 3.53          | 0.31          | 0.09 | 69       | (4)11—1月 | 4.10     | 0.59          | 0.14          | 31   |          |
|        | (4)11—1月 | 3.38          | 0.34          | 0.10 | 58       | 1907年    | (1)2—4月  | 2.72          | 0.62          | 0.23 | 32       |
| 1900年  | (1)2—4月  | 2.70          | 0.42          | 0.16 | 56       | (2)5—7月  | 3.04     | 0.78          | 0.26          | 30   |          |
|        | (2)5—7月  | 2.14          | 0.18          | 0.08 | 45       | (3)8—10月 | 3.33     | 0.81          | 0.24          | 28   |          |
| ③1900年 | (3)8—10月 | 4.55          | 0.55          | 0.12 | 65       | (4)11—1月 | 3.75     | 0.93          | 0.25          | 23   |          |
|        | (4)11—1月 | 5.40          | 1.27          | 0.24 | 77       | 1908年    | (1)2—4月  | 3.43          | 0.81          | 0.24 | 27       |
| 1901年  | (1)2—4月  | 2.99          | 0.38          | 0.13 | 75       | (2)5—7月  | 3.40     | 0.77          | 0.23          | 22   |          |
|        | (2)5—7月  | 2.84          | 0.45          | 0.16 | 78       | ⑦1907年   | (4)11—1月 | 4.63          | 1.12          | 0.24 | 31       |
| ④1902年 | (4)11—1月 | 3.32          | 0.29          | 0.09 | 16       | 1908年    | (1)2—4月  | 3.45          | 0.81          | 0.23 | 54       |
| 1903年  | (1)2—4月  | 2.76          | 0.30          | 0.11 | 23       | (2)5—7月  | 3.61     | 0.89          | 0.25          | 57   |          |
|        | (2)5—7月  | 2.46          | 0.36          | 0.15 | 39       | (3)8—10月 | 4.17     | 0.92          | 0.22          | 52   |          |
|        | (3)8—10月 | 2.36          | 0.26          | 0.11 | 43       | (4)11—1月 | 3.15     | 1.13          | 0.36          | 54   |          |
|        | (4)11—1月 | 2.43          | 0.46          | 0.19 | 40       | 1909年    | (1)2—4月  | 2.70          | 0.88          | 0.33 | 53       |
| ⑤1904年 | (2)5—7月  | 1.50          | 0.15          | 0.10 | 94       | ⑧1909年   | (2)5—7月  | 2.87          | 0.68          | 0.24 | 35       |

(注) 年月の欄におけるバーレン内の数字, たとえば(4)は第4四半期の略号。

ことなのかもしれないが, 仮にそれが可能であるとして, 表示された全期間にわたり観察しても, 『府統計書』のそれとの間に相違がみられる。後者の統計では, 上等であっても下等であっても, 長期的な上昇傾向が明瞭であるのにたいし, 賃機工賃のグラフからは, 前半期の低下傾向, 後半期の上昇傾向が読みとれるように思われるからである。これは, 賃機帳簿各冊から得られた数値を単純に繋げることが危険であることの端的な現れかもしれ

ない。とくに第5冊目から算出された1904年の工賃は, カーヴの形状には問題がないが, その水準は異常ともいえるほど低く, 何か特別の事情があったことを推測させる。他方, 『府統計書』からも1903年から翌年にかけての賃金低下は読みとれるが, その低下の程度は決して大きくなく, この点にかんしても疑問なしとしない。なお, 『府統計書』データのうち上等よりは下等において, やや大きな変動が観察され, それゆえいっていえば, 賃機

## による機織賃金



のワークシートを使用させていただいた。同氏の厚意に感謝する。

工賃の変化趨勢は『府統計書』系列の下等賃金のそれに比較的よく反映されていたといえるのかもしれない。

しかし第3に、いま問題となった1902年末から1904年末までの時期を別とすれば、すなわち観察期間中の最初と最後の時期との間における趨勢的变化のみを考えれば、帯谷の賃機工賃系列においても工賃水準の若干の上昇は認められるように思われる。いま景気変動の局面を

合せる意味で、糸価が低迷していた1899年と1908年とを比較してみれば、この点をはっきりするであろう。そして——『府統計書』には1908年の数値がまったく載せられていないので厳密な比較はできないが——こうした長期的な上昇傾向は、まさに『府統計書』系列が示しているところであり、その点での一致がみられたことの意味は小さくないと思われる。

もっとも以上は、賃機工賃の算術平均値による議論であった。その分布とバラツキ、およびそれらの変化もまた重要である。実際、図2における『府統計書』系列からも、1904年末から1906年初めにかけて賃金水準が上昇してゆくなかで、上等と下等の格差が縮小してゆくことが観察され、興味深い。この期間は、残念ながら帯谷の史料が欠けているのであるが、その後の不況の時期については、表2,3の標準偏差あるいは変動係数の値にみられるような、格差拡大の傾向が認められるのである。泉南綿織物業に力織機が導入されるのは、この時期である。その点でも、賃機工賃の水準、分布、バラツキがどう変化してきたかの分析は、重要な意味をもっているといえよう。ただし、それは本稿の範囲を超えた課題であり、詳細は別稿を参照されたい<sup>8)</sup>。

(一橋大学経済研究所・筑波大学社会科学系)

8) 齋藤・阿部，前掲論文(註1)をみよ。